



## 6月の予定



### 「本当の読書」「真の教養」のために

—『安岡正篤一日一言一心を養い、生を養う』に親しむ—

三輪 巴

元号「平成」の発案者としても知られる碩学・思想家である安岡正篤師の膨大な著作・講演資料の中からその子息正泰氏が編集したのが366の寸言より成る本書である。僕らの心の琴線を奮わせ、啓発に富む言葉に満ちている。

例えば2月8日の項は「本当の読書」と題して次のように語る。

「読書して疲れるようではまだ本当でない。疲れた時読書して救われるようにならねばならぬ。」これはなかなか手厳しい言葉である。疲れている時など着替える手間ひまさえ惜しく、四肢を投げ出して早くまどろみの川に沈みたい思いで一杯ではないか。あるいは並みの男なら、明日への英気を養うのだとばかりに酒の酔いに身を任せてしまうであろう。

ところが、正篤師はそうした怠惰を唾棄するが如きである。疲れてもお読書に勤しめと言っているのである。読書によって精気を取り戻す。心身を救う読書を遠ざけてどうするのだと言う。凡人には為しがたい行為ではあるまいか。しかし、それでもなお師の面魂はそう呼び掛けているのだ。なぜか？

読書とは本来、単に楽しみだけのものであってはならないと言うのだろう。ある時期、特に幼少年、青年期の読書は、全身全霊を傾けて人類の祖師、先達からの修養を求めてのあくなき学びであり対話なのであり、人間としての真の全人格形成上抜き差しならぬ営為だろうからである。

「お固いことは言いつこ無しにしましょう」と互いにほくそ笑みつつも面罵しながら、僕は自身の過去を曖昧のままに遣り過ぎてきた。結果、僕は個人や家庭、地域・郷土や国家観を亡失し、精神の枯渇状態に喘いでいる。

この危機のあることを安岡正篤師は、とくと見抜いていたかの如くである。そして後代の僕らに、本当の読書をなし、真の教養を積みと諭しているのである。

5月31日の項での「真の教養」と題した文言はこうである。

「およその真の教養とは、人類の有する偉大な著作に親しむことによって得るものです。そこで昔から優れた定評のある良い書物を少しずつ読むことであります。／人間としての教養の書、人としての哲学の書、修養の書というものを、注意して毎日たとえ三枚でも五枚でも、そういう書物を必ず読むようにする。いわゆる座右の書を持つということでもあります。」こうした積み重ねが、個人をも社会をも国家をも救う早道なのだと言っているように、僕には聞こえる。

(みわ ともえ/元明野図書館館長)

6月12日(日)  
『コッケモーモー！』  
『みんなであなをまっていた』

### おはなし会

午後3時～  
児童室にて

6月19日(日)  
『ねえとうさん』  
『こんにちは！へんてこライオン』

### ●大きな絵本もご利用ください

図書館には、高さが40cm以上もあるような大きな絵本もあります。これをビッグブック、大型絵本などと呼んでいます。

たとえばエリック・カール作『はらぺこあおむし』は、ふつうは縦の長さが22cmで横は31cmですが大型絵本では縦42cm横58cmにもなります。また手島圭三郎画・文『おおはくちょうのそら』は、ふつうは縦の長さが31cmの本ですが大型の44cmも用意しています。その分重さもありますが、迫力満点で、おおぜいの方への読み聞かせにも向いています。これらの大きな絵本もほかの絵本と同じようにご利用いただけます。リストもありますので、どうぞご活用ください。



### ●本を大切に

ページが破けてしまった、水にぬれてしまった、汚れてしまったなどの場合にはご返却の際にカウンターまでご連絡ください。

図書館の資料は市民の財産です。大切にしましょう。



### 図書館カレンダー



6月 JUN						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

【開館時間】  
午前10時から  
午後6時まで

■は休みです。

7月 JUL						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						